

第4回 田川地区多文化共生 ふれあいパーティー に思う



平成27年1月1日現在
総世帯数 1,799 世帯
総人口 3,702 人
男 1,800 人
女 1,902 人



21世紀に入って世界のあちこちで、きな臭い紛争が絶えない。それは民族間の争い、人種間の争いであり、悲しいことに宗教間の争い等でもあります。

そのほとんどが一部の権力志向の指導者の人民を巻き込んだ自分達だけの争いであり、大半の人々はそんな争いに関わりたくないし、何の関心もないのだと思います。

その象徴たるものが、オリンピックの閉会式の入場行進であります。選手および関係者が国、地域に関係なく、全員が一丸となって手を取りあって、肩を組み仲良く入場するその姿こそが、人間の本



当の姿だと思ふのです。

今、日本も一部の国との間に摩擦が生じていますが、そんなものに惑わされず、この地球上に生きとし生けるもの、お互いにお互いを尊重し、全てのものと共存できるように周りの人々、更には生命あるものと仲良く生きることを、今回の多文化共生の集いを通じて、強く強く心に刻みつけました。

少なくともこの田川地区では、この心を他人につなげ、他人に広げていきたいものです。

(田川地区町会連合会

会長 筒井 敏男)

落ち葉拾い 落ち葉焚き(焼き芋会)



てきたことと思います。

しかし、秋から冬にかけての落ち葉は大変な迷惑(松林さん談)ともなっていました。

伐採したい、残したいとの意見があり、今回は現状を知り、松本城築城より200年もの前の「けやき」について考える活動の一環として、落ち葉拾いの清掃活動を行いました。収集した

田川

地区は名前のとおり、田川の流れを挟み、北に女鳥羽川、西に奈良井川と昔から水害に悩まされた地区でもあります。松本駅アルプス口からアルプスを展望すると、都市化されつつある街並みの中間に神社か公園かと見間違ふ林が望めます。

渚本郷町会、松林さん宅の樹齢600年の松本市の保存樹に指定されている「けやき」18本です。

水害に強いけやきを植樹し土壌の強靱を図ったと考えられます。春夏は青葉も茂り近隣の皆さんに潤いをもたらす



落ち葉は焼き芋会に一部を使用、残りは肥料として有効活用致しました。

保存樹を保存か伐採かという選択肢を今後も考えていく良いきっかけになればらと思います。

参加いただきました皆さんや松本大学の皆さんの多大な協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

(田川地区町会連合会

副会長 堀内 正雄)

男の料理



りなさい」とカミさんから教わりましたが、指が出ていて切りそうな危ない人を見かけたので、包丁の使い方の講習からやるべきだと思いました。

以前、母が風邪のため父が作ったみそ汁は、ジャガイモの皮が残っていてまずかった。

みそ汁は煮えた後に70度くらいになつてから味噌を入れることや、ネギ味噌の作り方を学び「美味しい」の連発で、やって良かった。

今度は家で作り、家族に美味しいと言わせたいと思います。

(渚上 神戸 啓次)



先日、田川公民館で行われた「男の料理講習会」に参加して、ぼったりネギ豚井等を皆で楽しく作り、とても美味で感激した。

前日に呼びかけた人は「男子厨房に入らず」と断つたが、私のカミさんは「私が万料理できなくなった時のために習っておいて」と言つて、エプロンを買つて来てくれました。いざその時になって、何も料理ができずに困ってしまうのは想像できます。

「包丁で切る時は左手で卵をつかむように丸めて切